



職人の「おはよう」は、「今日もいいもの創ろう」。

火の国阿蘇の
恵みのブランド

然
zen
A s o C i t y

父は高級紳士服を仕立てる腕のいい職人でした。
時代の波のなか、そろそろこのへんが潮時かと考えた。
そして、豆腐づくりにめざめます。

「洋服屋が豆腐屋なんかできるはずないやろ」

どれほどケンカしたか知れん、

と妻はさすがに笑顔を振り返りますが、

職人氣質というものは洋服にも豆腐にも相通ずるのだ。

創作豆腐のアイデアがぞくぞく生まれました。

なによりも仕事がいねい。ファンが増えます。

息子も父の決意を受けとめ、

「このへんがいいと妥協したら、よい豆腐はできない」と断言する。

豆腐店の朝は早い。

親子三人の匠は、日が昇るなか今朝もせつせと作ります。

創作豆腐 豆の匠

上田次人・美枝子

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。